

くべっ川



2015(平成27)年11月1日 第232号 標津町教育委員会 ☎0153-82-2900

第3回 元気に頑張る標津の子サミット



「サミット宣言」を読み上げる参加者

発表内容

- ①食べるまでツアー (酪農体験)
 - ②川北「ひと」自慢
～地域の「ひと」から学んだこと～
 - ③修学旅行での標津PR係の取り組み
 - ④川北中学校と地域の関わり
 - ⑤標津高校ボランティア部の活動
 - ⑥読み聞かせボランティア活動
 - ⑦通学合宿の協力を通して
- (※発表者の氏名・学校名は紙面に掲載)

◆司会・進行 標津高校ボランティア部
金澤 翔哉さん、佐藤 海都さん

町内の小中高校「標津の子」
などが堂々と発表!

元気に頑張る標津の子サミットが、9月6日、町生涯学習センターで開かれ、町内の小中高校の児童生徒や一般ボランティアなど5校2団体29人が、「地域と学校の連携」をテーマに、各分野で経験して感じたことや成果などを発表し、来場者や教育関係者約120人が真剣に聞き入りました。

本サミットは、「地域の子どもは地域で育てる」気運を高めることを目的として隔年で実施し、今回で3回目。今回は、各分野で子どもに長年携わっていただいている一般ボランティア2組からも、日頃の活動内容を写真を使い分かりやすく発表していただきました。

発表後には、来場者からの感想のほか、金澤町長の励ましの言葉や根室教育局教育支援課塩田課長から発表者全員の総評をいただき、最後に参加者によるサミット宣言(P10に掲載)を行い、地域との交流を深めるとともに、人とのつながりを大切にする町に取り組むことを宣言しました。

「学校での学びを地域との学びにつなげ、町全体で子どもを育む」 ～「第3回元気に頑張る標津の子サミット」の目的～

標津町教育委員会は、平成23年度から標津の子どもたちが学習や学校行事、部活動、地域との連携で学びを広げる場などをはじめ、さまざまな分野で活躍し、未来に向けて夢や希望を持ち、明るく・楽しく・元気よくがんばっている子たちの姿から、町全体で子どもを育む運動をより一層広げ、推進したいと考えています。

平成25年度には第2回目として、「地域(社会教育)で学んだこと」をテーマにそれぞれの分野で体験したことを子どもたちの視点で発表してもらいました。

今年度は第3回目として、「学校と地域の連携」を深め、「地域の子どもは地域で育てる」気運を高めることを目的に本サミットを開催するものです。

本サミットの参加校や一般ボランティアの発表内容をご紹介します (氏名敬称略)

当日は各校、各団体ともパソコンを使いスクリーンに写真やポイントなど、工夫をして分かりやすく説明しています。なお、本紙は、スライドや説明写真等を割愛させていただきますのでご了承願います。

1. 食べるまでツアー (酪農体験)

《標津小学校5年生》

・阿部 叶・遠藤心菜美
・木村 生美・檜森 春菜
・古市日向花・渡部 佑菜

私

私たちは、4年生の時に酪農家の方について学習しました。乳からアイスクリームを作ったり、酪農に関するもので運動会をしたりして、酪農に関わる様々なことについて学習しました。また、中標津町の雪印工場へ見学に行き、酪農家から運ばれた牛乳がどのように加工され、商品となり、私たちの家庭へ届けられるのかについても学習しました。これらの学んだことから、酪農運動会とアイスクリーム作りについてまとめたものを発表します。

まずは、酪農運動会についてです。酪農家さんは、作業の時間につなぎ、長靴、帽子、手袋を身に着けます。酪農運動会では、どのチームが一番速く着ることができるかを競争しました。慣れない服装のため時間

がかなり大変でしたが、どのような服装で作業をしているのかを楽しく学ぶことができました。また、その後の調べ学習で、搾乳のときには前かけとゴム手袋を身に着けることを知りました。作業に合わせて、動きやすく清潔な服装をしていることが分かりました。



酪農家の大変な作業を発表した標津小発表者

次にアイスクリーム作りについてです。牛乳は飲み物としてだけではなく、チーズやヨーグルトなどの加工品や、パンやケーキ作りの材料としても使われます。私たちは、酪農家の方に、アイスクリームの作り方を教わりました。材料は牛乳のほ

かに、砂糖、生クリーム、バナナエッセンス、コーンスターチを使います。標津牛乳で作ったアイスクリームはなめらかでもおいしかったです。このおいしさを、多くの人に伝えたいと感じました。また、標津牛乳で作られたチーズやヨーグルトなどの他の製品にも興味がありました。

この学習で、私たちがおいしく牛乳を飲めるように、酪農家の方々が様々なことに気を配り、工夫していることがわかりました。これからも酪農家の方や牛に感謝して牛乳を飲んでいきたいと思えます。

2. 川北「ひと」自慢 地域の「ひと」から 学んだこと

《川北小学校6年生》

・石井 柊羽・潮 千愛里
・小野 愛佳・佐々木衣緒菜
・下 柚貴・滝本 苑加
・中條 美玖・徳永 来美
・村山 夏萌・山崎 咲輝
・渡邊 優羽

私 たちのふるさとには、地域でがんばる人たちがい

ます。自慢できる人たちがたくさんいます。会場のみなさんは、どのような方々が頭に浮かんできますか。

私たちは、昨年度5年生の時、総合的な学習の時間で「ふるさと学習」を行いました。『川北「ひと」自慢をさがせ』というテーマで、川北に住む地域の自慢である各方面の名人探しを実施したのです。グループごとに取り上げたい名人を決め、取材活動を行いました。取材して集めた情報を整理してまとめたものがこれら5枚の新聞です。これらの新聞には、山本さん、矢部さん、田村さん、滝本さん、中山さん、矢吹さん、笹木さんの7名の名人の記事が載せられています。

本日は、私たちが探し出した7名の名人、川北の「ひと」自慢について発表します。

山本商店の山本さんです。山本さんはズバリ、川北のみならず、日本で有名なワイン博士です。昭和49年からワインを取り扱い、お店の中だけではなく、倉庫の中にもたくさんのワインがあり、1200種類のワインが保管されています。その中で一番古いワインは、1971年もので、新しいものもふくめると、実に合計1万5000本ものワインがあります。ドイツのコンクールで入賞した経験のある山本さんは、長年ワ

インについて研究されており、ワインのラベルを見ただけでどのようなワインなのか判別できるほどワインについての知識が豊富なワイン博士です。山本さんのお話を聞いて、川北にはこんなすごい人がいるのだととても感動しました。川北には山本さんのようなすごい人がもともとたくさんいると思うので、そんな名人のお話をもっと聞いてみたいと思います。山本さんは川北の自慢の一人です。



川北自慢の7人を取り上げた川北小発表者

そば挽きと聞いて、みなさんはどのようなことを思い浮かべますか。そして、どのようにしてそばを作っているか知っていますか。お米と同じように秋に収穫されるそばは、穂に実がついていて、「こつみ」という機械で実だけ取り出します。その実を「石うす」で挽きます。

今説明したことは、昔、川北でもよく行われていたことです。私たちは「そば学習」をするまで、これらのことについて知りませんでした。

これらのことを教えてくださったのは、矢部さんです。矢部さんは、18年前の平成9年から、川北小学校の子どもたちにそば挽きを教えています。一つ一つ丁寧にわかりやすく、そして熱心に教えてくださいます。そんな矢部さんに、私たちは感謝の気持ちでいっぱいです。ですから、これからもこの「そば学習」を受け継いでいってほしいと思います。また、矢部さんのご自宅には、「明治・大正・昭和歴史と生活館」があり、昔使われていた道具などがたくさん保管されています。私たち川北小学校の子どもたちの素晴らしい学習の場となっています。このような矢部さんは、川北の自慢の一人です。

標津町と言えば、鮭節。田村さんは鮭節を作る名人の一人です。この仕事を始めて6年目だそうです。

みなさんは、知っていますか。田村さんがどのような願いを持って鮭節を作っておられるのか。

田村さんが鮭節を作ろうと思ったのは、標津町が鮭の町であることだけでなく、川北の町がもっと元気になってもらいたいという願いがあるからです。鮭節を食べて、みんなが「おいしい」と言って元気になるってほしいと願っています。将来、川北に戻ってきた人たちのためにも、少しでも働く場を作りたいと考えています。ですから、田村さんは少しもおいしい鮭節を作ろうと、作り方もこだわりのあります。「まきでいぶすこと」「手作りすること」この2点です。このような情熱いっぱいの田村さんは、川北の自慢の一人です。

みなさんは、川北唯一のケーキ屋さんを知っていますか。私たちのふるさとである川北には、滝本菓子舗というケーキ屋さんがあります。滝本さんは2代目店主、川北のお菓子作りの名人です。滝本さんは、買ってくれたお客さんが「おいしい」と言ってもらえるケーキ屋さんになりたいと、ていねいにお話ししてくださいました。おいしいお菓子を作るために工夫していること、一番気をつけていることは、素材の温度管理です。特に、かま・卵・バターの温

度管理が難しいと話されていました。先月の27日、私たちは修学旅行で柳月スイートピアガーデンに行ってきました。そこで、ケーキ作りを体験してきましたが、そこでも滝本さんが話されていた温度管理が大切であることをあらためて学んできました。マカロン・焼きシヨトラ・牛のたまご・ミルククラウン・ケーキ各種、川北で、おいしいお菓子をたくさん作っている滝本さんは、川北の自慢の一人です。

喫茶「雨傘」を営んでいる中山さん。中山さんは、川北のコーヒー名人です。取材に行ったときにごちそうになりましたが、中山さんの入れるコーヒーはとてもおいしいです。川北で一番です。

中山さんが喫茶店を始めた理由は、「喫茶店が好きだから」「川北にゆったりする場所を作りたかったから」です。ですから、中山さんのこだわりは、お店をきれいにし、入りやすく、居心地のよい喫茶店にすることです。左手が不自由な中山さんですが、一人ですべてのことを行い、喫茶店を営まれています。そんな中山さん、仕事をして一番の楽しみは、お客さんと会うことだそう

です。そのように話されていた中山さんの笑顔がとてもすてきでした。「一日を大事に！」このことをいつも考えながら毎日おいしいコーヒーを入れ続ける中山さんは、川北の自慢の一人です。



各発表者は写真やポイント等スライドを使い説明

「みんなと一緒に楽器を吹いている時が楽しいです。」と話されていた矢吹さん。矢吹さんは川北の楽器名人の一人です。矢吹さんは、小学生の時に楽器に興味を持つようになり、今では、ギター・クラリネット

ト・サクソ・ドラムなどいろいろな楽器を演奏できるそうです。音楽仲間を集めて、「カムイ・チェップ・ジャズオーケストラ」というバンドを結成して現在も音楽活動をされている矢吹さん。本職は何と、お寺の住職さんです。仕事が終わってから、バンドの仲間たちと楽器の練習をしているそうです。川北の楽器名人は、お寺の住職さん。この意外な組み合わせがすてきだと思いませんか。そういう矢吹さんは、川北の自慢の一人です。

みなさんは、川北にある「たつみ食堂」を知っていますか。「たつみ食堂」は、川北にある一件しかない食堂です。このお店の主人は笹木さん。1979年（昭和54年）から36年間、川北でお店を構えています。

笹木さんの味へのこだわりは、どのような好みのお客さんにも食べてもらえる味にすることです。取材にうかがった日には、ちょうど大阪と横浜から来たお客さんが、ラーメンをおいしそうに食べていました。取材をして特に印象に残ったメニューは、「スペシャルそば」と「わがまま丼」です。「スペシャルそば」は、卵・かしわ・天ぷらが入った豪華な

そばです。「わがまま丼」は、親子丼にトンカツとエビフライも入った、わがままに食べたい人のためのメニューとなっています。そして、パフェもおすすめで、とてもおいしいです。川北でだれもがおいしいと感じるメニューを作り続けている笹木さんは、川北の自慢の一人です。

私たちのふるさとは、地域でがんばる人たちがいます。自慢できる人たちがたくさんいます。

今日、紹介しました7名の名人の方々は、私たちの自慢、川北の自慢の人たちです。7名の方々に共通することは、ふるさとである川北が大好きであること。自分たちのふるさとをよくしていきたいと思っていること。熱い思いを持って活躍されている、ということです。

私たちのふるさとは、すてきな方々がたくさんいます。私たちのふるさとは、とてもすてきなところだと、あらためて感じる事ができました。これからも、自分たちのふるさとを大切にすてきな気持ちを持ち続けたいと思います。

3. 修学旅行での標津PR係の取り組み

《標津中学校3年生》

・今野 涼・佐賀友里亜

修

学旅行PR係リーダーの今野涼です。私たち標津中学校3年生は9月8日から3泊4日の修学旅行に出発します。



修学旅行で標津町をPRした標津中発表者

札幌や小樽などを訪れる予定です。そこで私たち標津PR係は標津町をPRしていきます。そのためにこのようなパンフレットを作りました。このパンフレットには標津町の

グルメや観光、イベントについてわかりやすくまとめられています。グルメの部では鮭節、鮭とば、観光の部ではサーモン科学館とポー川自然公園について。イベントの部ではオホーツクマラソンと水キラリについてと、一ページ、一ページ標津PR係のメンバーで丁寧になられています。これは訪問先の札幌の「せいとく介護福祉専門学校」、「池上学院グローバルアカデミー専門学校」、「北海道ドレスメーカー学院」、「北海道理美容専門学校」、「光塩調理製菓専門学校」、「専門学校スクールオブビジネス」、「専門学校札幌マンガ・アニメ学院」で配布させていただく予定です。また、これだけではなく、標津町の色々なことがまとめられた公式ポスターに標津PR係でメッセージを書くなどしたものを掲示してもらうことも考えています。

このようなことを行うことには標津町のことを知ってもらい、たくさんの人々が標津を訪れてくれるようにし、標津町の活気を良くしようという目的があります。ほかに、専門学校の若い人たちにアピールすることも必要だと考え、私たち中学生が張り切って標津町をPRしてきたいと思います。

最後に、このような場で発表させていただき、ありがとうございました。

4. 川北中学校と地域の関わり

《川北中学校生徒会執行部》

〈3年〉
・合田 匡助・田中 智基
・新井 馨太
〈2年〉
・榎木 大雅・大場しおり

僕

たち川北中学校生徒会の発表を始めます。

僕たちの住んでいる川北はとても小さな町ですが、元氣と活気があります。住民みんながイベント好きな人が多く、様々なイベントを企画し、町を盛り上げています。また、私たち中学生にもやさしく接してくれる方々ばかりでいつも授業や行事でいろいろとサポートしてもらっています。

今日は川北のイベントの一つであるロシア人交流会と、川北中学校が新たな試みとして始めた土曜日授業について紹介したいと思います。

ロシア人交流会

川北にはロシア人ファミリー受け



地域で受け入れているロシア人交流会等を発表する川北中発表者

入れ交流会というイベントがあります。交流会についての取組を紹介したいと思います。

内容について紹介します。私たちは北方領土に住むロシア人と交流をしました。小さな子供や中高年代の方々など様々な人たちがいて、その人たちに日本の伝統芸能を紹介したり、いっしょに会食をしたりします。食事は日本食が中心で、地域の人たちが作った鮭節ラーメンなどをご馳走しました。

(写真説明) 写真1. 川北中学校の生徒による川北太鼓の演奏風景です。写真2. これはみんなで食事を楽しんでいる様子です。ここでロシ

ア人とコミュニケーションをとりました。写真3. これはきりぎり音をみんなで踊っている様子です。

この交流会の目的はお互いにそれぞれの暮らしを知ってもらうということです。ロシアと日本には昔から領土問題がありますが、まずはお互いのことを知ることが大切だと思います。私たちも、ロシアの人々に日本の人の良さを知ってもらえるように、地域一丸となってロシアの人々をおもてなしし、町全体でこの問題と向き合いました。

この交流会で学んだこと、感じたことは、ロシアの人々にもそれぞれの暮らしがありこの問題は簡単ではないということでした。ロシアの人たちはいい人ばかりでした。交流会をしているときは領土問題のことなど気にせず交流を楽しみました。ロシア語はとても難しくコミュニケーションは容易ではなかったです。

私たちがこの交流会に参加した感想です。ロシア人と交流することで良い言葉の練習になりました。またロシア人も日本語を練習してきてくださり、場の雰囲気もとても良かったです。

そして時々私たちに分けてくれるロシアの食べ物もおいしかったです。

土曜授業

川北中学校では今年度、土曜授業

を3回実施する予定です。内容は講話を聴いたり、取材をしたりします。目的は、「地域の話を取り入れ、地域のことをもっとよく知る。」そこで知ったことを壁新聞に書き、みんなに伝えよう」です。

7月に行われた第1回土曜授業では、実際に町に出て取材をしました。(写真説明)

1. Aコープでの取材風景です。
2. 滝本菓子舗での取材風景です。川北にあるお菓子屋でここでは人気のお菓子や最近のニュースのことについて聞きました。
3. 川北温泉保存協会の方にお話を伺っているところです。「川北温泉が残っているのは協会の方々がボランティアできれいに維持しているから」ということを聞きました。
4. 弓場牧場での取材風景です。中学校から3km以上離れていましたが自転車で行きました。牛や仔牛の育て方やオス牛の行方などを聞きました。

第1回の土曜授業で学んだことはたくさんあります。講話では違う方向から物事を見ることも大切ということ、取材では普段聞けないことを学ぶことができました。土曜授業を通して地域のことをよく知り、改めて川北は人の温かさが溢れる町だと思えました。

今回の土曜授業は地域の人の協力

なくしてできたことではないと思います。今回の経験で得たことを無駄にせず、これからの生活に活かしたいです。

おわり

僕たちは国語や数学の勉強だけではなく地域の方々と触れ合ったり、外国人とコミュニケーションをしたり、と様々な活動をしています。ここで学んだことをそのままにせず、今後の将来に向けて活かしていくことが大事です。これからも僕たち川北中学校が地域を盛り上げていけるように全校生徒で頑張ります。

5. 標津高校

ボランティア部の活動

《標津高校ボランティア部》

〈3年〉

・佐藤 海都・乗上真由美
・金澤 翔哉・永井 恋華

こんにちは、これからボランティア部の発表を始めます。ボランティア部は現在10人で活動しております。私たちの活動目標は、地域に貢献し、笑顔・情熱・誇りを motto に日々いろいろな活動をしております。学校での主な活動は、学祭での喫茶店運営、清掃・チャリティー販売という自分たちで物をつ

くり販売する活動をメインに校外の活動では、はまなす苑という介護施設や水キマリ、児童館のお手伝いなど様々な事を行っています。



「地域に貢献」を目標として活動する標津高校ボランティア部

これは、はまなす苑での活動内容です。主に食事の配せんのお手伝い。介護のお手伝い・掃除のお手伝いなどを数人ずつに分かれて行っています。お年寄りの方とお話したり、お歌を歌ったり、軽い運動をしたりと一見大変そうですが、とても楽しいです。ボランティア部の元先輩もこの活動を通し、はまなす苑へ就職し、活動のときに会うと、とても生き生きと楽しそうに活動しています。

これは、チャリティー販売の様子です。チャリティー販売では、自分たちで作った、お菓子やアクセサリなどを校内で販売し売上を東日本

大震災の義援金として寄付しています。月一度くらいの頻度で行っているのですが、いつも販売の時間になると生徒や先生方の列で廊下が溢れます。ボランティア部の主な校内活動です。

そしてこちらが水キラリのお手伝いの活動です。水キラリでは子どもたちを中心としたスーパースクールすくいや射的、おもちゃなどの販売と運営のお手伝いをしました。今年も天気がよく、暑い中大変でしたが来てくれた子ども達やお母さんたちの笑顔をとくさん見ることも出来、部員達との交流も深まり、充実した一日となりました。

これは学校祭での活動です。今年は趣向を変えて、メイド喫茶を企画しました。部員たちは各自気ぐるみやメイド服を着て接客、お菓子とアークセサリーの販売などを分担して行いました。去年は、普通の喫茶店を運営したのですが、メイド効果もありアークセサリーなどもすぐ完売し今年は大盛況でした。

これらの活動を通して、私たちは微力ながらも「地域に貢献する」という活動目標を達成することが出来ていると思います。しかし、それは私たちだけの力だけではなく、ボラ

ンティアする側も、される側もお互いに「感謝」の気持ちがあって成り立つものだと思います。

私たちはこれからも、活動を共にする仲間、地域で私たちを必要としている方々に、そして私たちの活動を支えてくださる地域の皆様に対する感謝の気持ちを忘れずに今後も活動を続けていきたいと思えます。

今回、私たちの活動を発表する機会を頂けたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございます。以上で標津高校ボランティア部の発表を終わります。今後も活動ががんばりますので応援よろしく願います。

6. 読み聞かせ

ボランティア活動

《よむよむ☆ママさん隊》

隊長：高橋 靖子
隊員：和田 徳子

私

達は、標津町内で絵本読み聞かせボランティアをしています。活動のきっかけは、学校側からの要望でした。当初のメンバーは、学校の先生方の奥さんや学校に通っている子供たちのお母さんで、休み

時間に教室の一室で、読み聞かせを聞きたい子供たちが集まって行っていました。「よむよむ☆ママさん隊」というグループの名前は、当時の小学生が皆で考えて名付けてくれたもので、大変気に入っております。



町内の学校で読み聞かせを行っているよむよむ☆ママさん隊

さて、近年、読み聞かせが子供たちの成長に非常に効果があるという研究結果を受け、また、地域と学校の協力により、子供たちをより良い環境で育てていこうという考えのもと、絵本の読み聞かせは、全国各地の学校や図書館などで行われています。

私達の近年の活動は、標津小学校で毎週水曜日の15分間、標津中学校で月に2回程、今年度からは、川北小学校からの要望を受け、毎月1回

川北小学校へも出向いています。また、昨年からは、年に2回、中標津町のラジオ局「FMはな」の読み聞かせ番組にも出演をしています。メンバーは、現在10名で、標津在住の子育てを経験しているお母さんです。中には、幼児教育を学んだ者もあり、子供と絵本が大好きなメンバーばかりです。メンバー一人一人の絵本の好みも違うため、お互いに情報交換をし、様々な幅広いジャンルを把握しています。聞いてくれる子供たちの精神的な成長にあった本を適切な時期に選んで紹介しています。

また、平成26年には、北海道読書推進運動協議会より、優良読書グループに表彰され、活動の励みにもなりました。

読み聞かせをしていて嬉しい事は、子供たちが楽しみに待っていてくれる事です。そして、本を通じて感じて欲しいことや伝えたいことが、子供たちに伝わったりする事です。

最近の悩みは、一緒に活動してくれるメンバーが減ってきたことです。

今までも、メンバーの都合で活動が難しくなり、2〜3年くらい休止したこともありましたが、現実に、メ

メンバーの人数と各学校からの依頼をこなすには、少々無理が生じてきている部分もあります。息の長い活動を続けるには、メンバーの増加が求められます。ボランティアに賛同し一緒に活動してくれるメンバーを獲得するには、活動をより魅力のあるものにしなくてはならないと考えています。そのため、私達は、教育委員会のご協力を受け、先月、剣淵町で行われた「全国紙芝居まつり」に参加し、研修を受けてきました。このような研修を定期的に受けることで、更なるスキルアップを目指し、今後の活動を盛り上げたいと考えています。

7. 通学合宿の 協力を通して

《通学合宿実行委員》

一般ボランティア：佐藤久美子

平 成16年度に第1回目の通学合宿が開催されてから、本年度で12回目を迎えました。私は、2

年目から11年間に亘って調理部門の担当として参加させていただき、朝夕の食事を、大学生と子供達と一緒に作って来ました。家族と離れて、学年やクラスの違うお友達と一緒に

生活しながら、普段は調理や包丁に触れることのない子供達が馴れない手つきで、皆で協力しながら一生懸命調理をしている姿を見て、何となく心暖まる印象を受けていました。



通学合宿初回からお手伝いいただいている佐藤さん

当初、食事のメニューは町の栄養士さんと合宿に参加している子供達が考えて作ることにになり、料理は簡単なものばかりでした。買い出しには、当番になった子供達と学生が行き、品物を調達してきました。最初の合宿場所は、文化ホールで開催され、調理台は4台使用し、それぞれの食材及び缶詰の缶切り等、包丁を使う食品が多かった割には怪我をすることもなく上手に出来ていました。が、内心は「ハラハラ、ドキドキ」の毎日でした。何年か経過してから

合宿場所が文化ホールからあすばるに変更となり、料理の方は、町内のサークルの人や町内連合会女性部の人達が作るようになり、料理が出来上がるまでの間は、子供達の学習時間となり、盛り付けだけを手伝うことと、後片付けをすること、金曜日の夜の食事作りは、おにぎりや焼肉に入れる野菜切り等は子供達と学生の担当で楽しく賑やかな食事作りでした。1週間が経って苦手だった野菜も少しずつ食べることができるようになり、残すことも少なくなりました。現在は、朝食抜きで登校する子供達が多い中、決まった時間に和気あいあいのうちに皆で摂る朝食は、自然に会話もはずみます。昨年度から川北小学校の子供達も参加して、より充実した交流・学びの場となりました。

子供達は、この通学合宿を経験したことで自立する心が芽生えた事とは思いますが、日頃より、感謝とお互いに思いやりのある気持ちを持って過ごして行ってほしいと思っています。私は、この通学合宿を通して子供達が少しずつ成長していく姿を見て、とてもうれしく思います。機会があれば、又、参加させていただきたいと思っております。



各発表者の日頃の活動に来場者からエールが送られた



スムーズな司会進行をした金澤翔哉さんと佐藤海都さん

根室教育局・塩田課長 <総評>

～標津の取組は、道内でも先進的で魅力的な活動～



発表者へ一組ごとに
丁寧に総評を述べる
塩田教育支援課長

本 サミットには、私自身大変魅力を感じております。簡単に申し上げますと、このサミットには2つの目的があります。標津町の子ども達を町全体で育む運動を広げていこうという事と、学校での学びを地域での学びに広げていくという事です。この2つを達成する事を目的に、子どもたちが何を思い、感じ、考えているかということをも私も含めて、大人が理解していく、そのように頑張る子ども達に、エールを全面的に送っていこうという標津の取り組みは、他には例がないと捉えております。先進的な取組であり、大変心強く思っているところです。

それでは、私からは一つひとつの感想を述べさせていただきます。

- ①標津小学校の皆さんは、酪農運動会での作業着へ着替える競争、標津牛乳で作ったおいしいアイスクリーム、この2つの体験の紹介でした。この体験に基づいた酪農家さんへの気配りや工夫、日頃おいしい物を提供してくれた感謝が述べられました。さらに、普段の酪農家の服装を調べたり、日常食べているチーズやヨーグルトがどのように作られているのかなど、次なる学習につなげている点に取り組んでいることは素晴らしく大きな魅力を感じます。同校の取り組みのキーワードである『体験』を通して、今後も思い感じたことを簡潔に分かりやすい文章にまとめ、相手に伝えるという取り組みを続けていただきたい。
- ②川北小学校の取り組みですが、何よりも自慢できる人を探すというテーマのもとに、グループごとに取り上げたい方々を決め、取材を行い集めた情報を上手く整理しレイアウトして表現して発信していました。強調したいのが、発表の最後に自慢したい人々に共通している言葉3点、(1)故郷川北が大好き、(2)自分の故郷をより良くしたい、(3)熱い思いを持ってそれぞれの道で頑張っている部分は、現在学校教育で求められていることを具現化しています。多くの情報の中から共通ものを明確にして、それを表現していくということは非常に魅力的な取り組みでした。今後についても故郷標津の良さについて産業や観光分野にも理解を深めて標津の魅力発信を一層進めていただきたい。
- ③標津中学校の取り組みで魅力を感じた点は、グルメ、観光、イベントの3つの観点で、多くの皆さんが感心や意欲を感じる部分を取り上げている。この3つの観点からパンフレットにし、分かりやすくまとめて修学旅行で上手くPRしていく取り組み、それとともに「多くの皆さんに標津町に来てもらいたい、そして町がより一層活気づいてほしい」というあたたかい気持ちは魅力的です。今後の学校生活の他に、自然や産業など別な観点から標津町の魅力の部分をもまとめ・発信してもらいたい。
- ④川北中学校の発表では、ロシアの方々との交流の場を通して日本の伝統文化を伝えること、また、地域一丸となって皆さんをおもてなしの大切さが分かったことは、非常に共感を持ちましたし魅力的でした。今後の学校生活を通して、社会科やニュースでの政治の動向等を踏まえて、北方領土問題について継続的に考えていく取り組みを続けてほしい。
- ⑤標津高校ボランティア部の活動です。はまなす苑の手伝いを通して、お年寄りとの対話が楽しい、また水キリリに来てくれた方々の笑顔が嬉しいという発表者の言葉に共感を持ちました。この「うれしさ」があるからこそ、ボランティア活動を継続していけると思います。そして何よりも「ボランティアする側もされる側も感謝の気持ちを大切にすることは必要である」、この言葉に尽きると共感し魅力を感じました。今後も活動を通して思い感じたことを、ぜひ振り返るということを大切にしてください。
- ⑥よむよむ☆ママさん隊の取り組みは、15年前から活動され、当時は希望者のみで活動し始めたものが、国語の授業まで拡充することになった取り組みが進められたお話は、とても魅力を感じる。何故なら、以前は希望者のみの活動だった現状から地域の方々と協力し合い取り組みを充実させていることは素晴らしい。FM放送にも紹介されましたが、この様な読み聞かせ活動を、皆さんも機会がありましたら今後発信していただきたい。
- ⑦通学合宿は平成16年度から取り組み始め、今年度で12年目全ての取り組みに協力されてきた佐藤さんに感謝申し上げます。印象的な言葉は「みんなで摂る朝食は会話が弾んで楽しい」という一言や、「そのような子ども達の成長を見るのもとても楽しみだ」という言葉が魅力的でした。いま学校教育では、子どもへのあたたかい声かけや子どもの気持ちをどう引き出すかということが話題となっています。ぜひ、今後も声かけをしていただき、お力添えをいただければ幸いです。
このような魅力のある発表をしていただいた小中高校生及びボランティアの皆様へ敬意を表し感謝を申し上げます。以上で、私からの総評といたします。



児童生徒への日頃の活動の成果にエールを送る金澤町長

第3回子どもサミット町内の小中高校生の皆さんの発表は素晴らしいものがありました。また、町民の皆さんは普段から子ども達に関わって、その中で子ども達の成長を育んでくれているとつくづく思い、感動に似たものを感じながら発表を聞いておりました。私からはありがとつと申し上げたいと思います。

先日、全国何百箇所を自転車で旅している観光客の方から私宛に、「標津はあいさつがすばらしい、ある親子に親切にしてください、非常に感動した」との手紙が届きました。ここに教育の原点や人の営みの基礎基本があると思っ

地域と学校が連携した『垣根のない学校づくり』の取り組みを

つと、日々あいさつ運動に取り組んでいます。

教育というのは学校や施設の中だけで行われるのではなくて、地域と学校の垣根を取り払って連携を図っていくべきものだ、今日はつくづく感じました。つきとめると、『垣根の無い学校づくり』という事になっていくと思います。

私の教育に対する大事にしている言葉が一つあります。「1年先をみるなら麦を植えよう、50年先をみるなら木を植えよう、100年先をみるなら人材を育てよう」という言葉であります。私は、町長に就任させていただいて10年目になりましたが、当時の平成17年は町の財政は本当に厳しかったのです。財政は厳しかったですが、子ども達に直接関わる経費は一銭も削ったことは無かった。むしろ増やしていた。これが私の教育に対する教え方の理想像です。

今後、標津のまちを50年、100年、200年、300年と生きていかなければなりません。それを支えてくれるのは皆さんです。ともに頑張りましょう。

サミット宣言

わたしたちは、海・山・川・大平原と恵まれた自然環境にある「ふるさと標津」を学びのフィールドを活かし、多くの町民の皆さんの温かいご支援をいただき、さまざまな活動・体験を通して学んできました。常に感謝の気持ちをもって、お互いに笑顔であいさつを交わすとともに、地域の方々と交流を深め、人と人とのつながりを大切にする町に、大人の皆さんとともに次のことに取り組んでいきます。

1. 「ふるさと標津」を学ぶ体験活動をこれからも進めます
1. 早起き、朝ご飯など基本的な生活習慣を身につけます
1. スマホやネット・ゲームなどソーシャルメディアは節度を持った利用をします
1. いじめや差別は絶対に許さず、無くします

2015年9月6日 第3回元気に頑張る標津の子サミット
代表 標津高校3年 乗上 真由美